

4月沿岸定線栄養塩測定結果

平成31年4月25日
岩手県水産技術センター
TEL0193-26-7919

1. 表面分布 (図1)

本県沿岸10海里以内の栄養塩 ($\text{NO}_{2+3}\text{-N}$) の表面分布は15から174 $\mu\text{g/L}$ であった。

なお、採水は漁業指導調査船岩手丸により、0、5 (0mのみ)、10海里地点で4月8日から4月9日に行った。

2. 10m以深の分布 (図2、図3、図4)

本県沿岸10海里以内では、黒埼定線で15から114 $\mu\text{g/L}$ 、トドヶ埼定線で51から143 $\mu\text{g/L}$ 、尾埼定線で57から140 $\mu\text{g/L}$ 、椿島定線で48から137 $\mu\text{g/L}$ の範囲であった。

2019/4 0 m

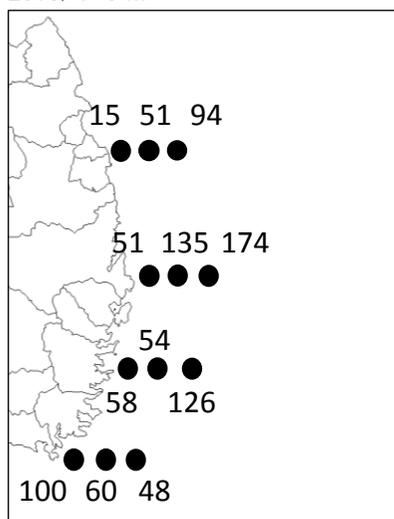


図1 表面の分布

2019/4 10 m

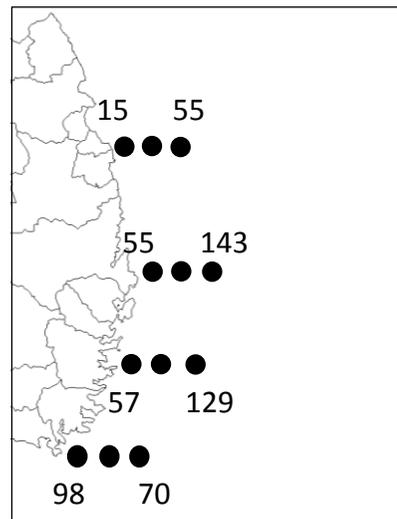


図2 10m深の分布

2019/4 30 m

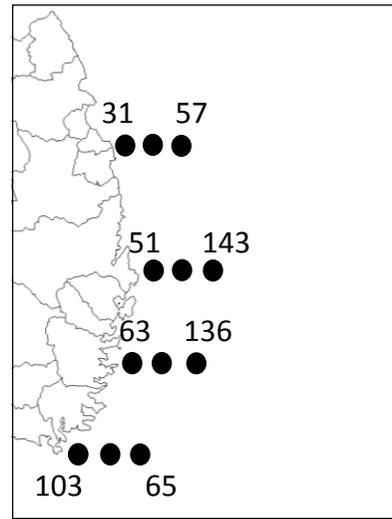


図3 30m深の分布

2019/4 50 m

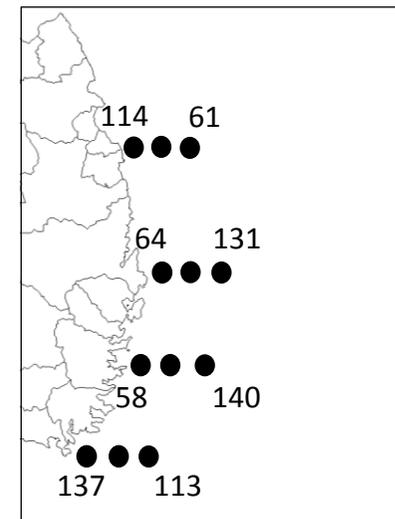


図4 50m深の分布

※背景地図にはCraft MAPを使用 (<http://www.craftmap.box-i.net/>)

【参考】

- ・ 栄養塩 (硝酸+亜硝酸態窒素 $\text{NO}_{2+3}\text{-N}$) の単位は $\mu\text{g/L}$ で表す。
 - ・ 10 $\mu\text{g/L}$ 以下でワカメの原藻加工後の色落ちの危険がある。
 - ・ 20 $\mu\text{g/L}$ を一応の安全な目安としているが、20~30 $\mu\text{g/L}$ でも晴天の日が続いたり、海水交換の悪い時は、ワカメの色落ちが起こる場合がある。
- ※本観測の一部は「環境省 平成31年度地域適応コンソーシアム北海道・東北地域事業委託業務」における「海水温の上昇等によるホタテガイ及びワカメ等の内湾養殖業への影響調査」の一環で実施している。